

2020年1月6日

2020年 社長年頭所感

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。

本日1月6日（月）9時より、伊藤ハム米久ホールディングス株式会社（東京都目黒区）にて行われた、当社代表取締役社長 宮下功による「2020年 年頭所感」の要約を下記の通りお知らせします。

記

昨年を振り返って

一昨年に続き昨年も自然災害の多い年であった。 自然災害は、今後も高い確率で発生すると考えねばならず、事前の対策を強化し物心両面での備えをお願いしたい。 米久の夢工場の火災では、お客様やお取引先様をはじめとする社内外の皆さまに、大きなご迷惑をお掛けし、あらためてお詫び申し上げます。 また、当社グループに明治ケンコーハムが加わり、今後具現化するシナジー効果も含め、大変心強い限りである。

データを活用し、製品や仕事の機能・付加価値を高め、企業としても成長しよう

世の中は目まぐるしく変化しており、変革にチャレンジすることはとても大切だ。 デジタルトランスフォーメーションという単語を見聞きするようになったが、当社グループが保有する数多くのデータ、(工場での製造コスト、物流や販売に関するものなど)を活用し、当社グループの製品や仕事の機能・付加価値を高め、業務そのものや、組織、企業文化・風土を変革することで成長をしたい。 そのためにも、データの裏まで思いをめぐらし、仮説を立て検証することが肝要である。 そうした業務に真摯に向かい合い、引き続き、失敗を恐れずチャレンジすることを期待する。

根本的に解決する

昨年、さまざまな出来事があり、その都度ノートに書き留めた内容を見返すと「根本的に解決する」というフレーズが何度か出てきた。 問題が起きたとき、とかく事後対応の議論になりがちだが、前始末を如何にするかということに、より知恵を絞らねばならない。 表面的に取り繕う、自分の判断や行動の正当性を主張する、外部要因や他者の責任にするとといった行為は、残念ながら根本的な解決につながらない。 問題が生じたり失敗があっても言い訳をせず、そこから素直に何かを学び取り、具体的行動に結び付けていくことを実践してほしい。 そうすることで、個人も組織も成長し、延いては企業文化・風土の変革につながると考える。 日々進化し、変革を成し遂げる集団でありたいと考える。

本年のスローガン

今年4月からは、中期経営計画の最終年度が始まり、組織として、定量・定性で掲げた目標に向かって、総仕上げの年となる。 以上を踏まえ、本年のグループとしてのスローガンを以下とする。

「真因を見極め、真摯に向き合う」～洞察力と実行力を高め、対症療法ではなく根本から解決する～
以上

本リリースに関するお問い合わせ先	伊藤ハム米久ホールディングス株式会社 総務部広報室 篠原、眞島 Tel:03-5723-6889 Fax:03-5723-2112
------------------	---